



田曾浦地区全住民で取り組む 防災活動



三重県田曾浦区自主防災隊
前隊長 浜口 保泰

私たちの住む三重県南伊勢町田曾浦は、リアス式海岸の湾の入口という地理的条件にあり、今騒がれています「南海トラフ地震」の想定震源地に近く、地震発生に伴う「揺れ」、「津波」の被害を早く、大きく受けることが危惧されています。

田曾浦区自主防災隊の活動は、「住民の防災意識向上」を目的に、住民との防災勉強会、タウンウォッチングの回を重ね、住民に災害時における「自助」、「共助」の想いを強く持ってもらうことから出発しました。

東日本大震災を受け、田曾浦地区内に11か所の、海拔20m以上に位置する一次避難場所を選定し、それに通ずる避難道、防災倉庫の整備を行いました。現在においては、住民も参加しての整備作業として継続しており、住民の中には、常日頃から草抜きなどの作業を行ってくれる人も出始めてきております。

整備した避難道・避難場所、また地域に合った避難行動をいつでも確認できるように、「田曾浦区防災ハンドブック」を自ら製作し、田曾浦区全世帯に避難行動のアドバイスも加えながら配布しました。

田曾浦地区の避難道には山道、坂道が多く、高齢者率の高い私たち地域において、避難行動を万全にするため一次避難場所に設置した防災倉庫に、各世帯の非常持出し荷物を備蓄管理しておくという対策をとっています。避難行動が身軽に、スピーディーになります。現在年2回、荷物の入替作業を住民と共に実施してお

ります。

この試みを実施、継続しているおかげで、住民の水・食糧を含めた備蓄品への意識が高まり、積極的に備蓄品の充実を図るようになりました。

また、子供たちにも防災に関心を持ってもらおうといろいろな策を投じております。子供たち同士で無線機を使用しているタウンウォッチングや、ロケットストーブを製作し、それでハイゼックス包装食を作ってみたり、という試みです。

今年度より、住民と共にを行う一次避難対策に加え、二次避難・避難所運営対策の構築に着手し始めました。

私たちの想定している二次避難所は、隣地区と共有することになっております。そこで、両地区連携で避難所運営協議会なるものを立ち上げ、現在協議を進めております。自分たちの地域の状況や実際の施設配置を取り入れたHUG（避難所運営ゲーム）を体験し、避難所開設、避難所運営においてどのような問題点が起こってくるのか想定していくことから始め、避難所施設のレイアウト、必要な備蓄資機材を協議し、さらには独自の避難所運営マニュアル作成まで進めています。今後、住民も参加しての避難所開設訓練を実施します。

このように、田曾浦地区においては常に住民が一体となって防災活動に取り組んでいます。



住民との整備作業



田曾浦区防災ハンドブック



防災倉庫への非常用荷物備蓄



防災倉庫への非常用荷物備蓄



隣地区との協議会（HUG）